



DIファイル

添付文書の改訂情報 他

クラリスロマイシン / ベゲタミン /  
ファムビル / テオドール

Premium Edition

検査値のミカタ  
肝機能

2013年12月10日発行 (毎月10日発行) 通巻194号

特集

# 検証! 働きやすい薬局

薬剤師が求める5つの要素と実践例

Report

## 持参薬管理に 薬局の情報活用

日経DIクイズ

## Ca拮抗薬 服用中に Ca摂取不足に なったら

薬剤師のための情報サイト「DIオンライン」  
<http://di.nikkeibp.co.jp/>



「日経DIモバイルスマートフォン版」  
「日経DIデジタル」  
いずれもこちらから  
<http://di-s.nikkeibp.co.jp/>

# DECEMBER

	1	2	3	4	5	6
	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
	OFF	AM PM	AM	AM PM	AM	AM
	PM	AM PM	OFF	AM	AM	AM
	OFF	AM	AM	AM	AM	AM
	AM	AM	AM	AM	AM	AM

Illustration of a calendar grid for December with various DI characters and a telescope.

ユーザー訪問 東神戸薬局 (兵庫県神戸市)



東神戸薬局

# 「ミスゼロ子」の導入で ヒューマンエラーが激減

神戸市東灘区の東神戸薬局では、調剤ミスを防止するために、(株)クカメディカルが独自開発したバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入。薬の取り間違え、取り忘れは限りなくゼロに近付いた、と同システムの有用性を実感している。

## 「オーダーメイドの医療提供」が目標

神戸市、JR住吉駅から徒歩4分の場所にある東神戸薬局は、(株)神戸医薬研究所(兵庫県神戸市)が、1983年に開設。同研究所は、同じ神戸市内で他に3店舗を運営しており、全日本民主医療機関連合会(民医連)の加盟事業所として地域住民の健康づくりをサポートしている。

東神戸薬局は、近隣の東神戸病院が医薬分業を始めた際に開局し、現在でも応需する処方箋(1日約300枚)の内、9割は同病院発行のもの。ただ、近隣には眼科や歯科の診療所もあり、これらの受診患者の来局も多いという。スタッフ構成は、薬剤師が常勤11人・パート6人、事務員が常勤4人・パート11人。東神戸病院が夜間診療を行う月曜・水曜・金曜は、夜の10~11時まで調剤することも少なくないようだ。

東神戸病院も民医連に加盟しているため、以前から合同で定期的にカンファレンスを行っており、それが「医療の質を高めることにつながっている」と同研究所代表取締役(薬剤師)の山口扶左子氏は話す。在宅訪問に20数年前から取り組んでいるのも、同薬局の特徴の1つ。毎日10数件、個人宅を中心に薬剤師が交代で訪問する。

服薬指導に当たって、山口氏は「薬歴を残すためだけの指導にならないように」と薬剤師全員で申し合わせている。「一方的に説明するのではなく、患者さんと同じ目線に立ち、患者さんの思いに添うこと。すべては、そこから始まると思うのです」(山口氏)



東神戸薬局の薬剤師の皆さん



「ミスゼロ子」を使ったピッキング。他の薬局が、「ミスゼロ子」を活用した実務を見学に来ることもあるという。

また、同研究所次長(薬剤師)の下浦志織氏は「薬が飲みづらかったり、飲むと何となく調子が悪かったりと、患者さんは気になることがあるものです。そうした医師の先生方に言いにくいことを、薬剤師が拾い上げていくことが

重要」と話す。可能な限り、オーダーメイドの医療を提供したいとの思いから、服薬困難な患者には同社手製の「お薬カレンダー」を渡すこともある。

ただ、分包化、増加する後発品、一般名処方など、調剤業務で「チェックすること」「覚えておくこと」が多くなり、「人為的ミスが誘発される懸念が増してきた」と山口氏は指摘する。服薬指導や処方鑑査を充実させ、待ち時間も短縮させたいが、薬のピッキングであわてると調剤ミスが起こりかねない。このジレンマを解消するため、同社が運営する店舗全店で2010年3月から導入したのが「ミスゼロ子」だった。

## 薬の取り間違え、取り忘れはほぼゼロに

「ミスゼロ子」は調剤カセットにバーコードシールを貼り、それを端末で読み取って調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステム。「ミスゼロ子」のマスタには、発売されているほとんどの薬品が登録されており、箱やシートに記載されているJANコード、GSI-RSSコードのどちらにも対応している唯一のシステムだ。

「他社の調剤ミス防止システムも検討しましたが、メンテナンスのしやすさ、表示の仕方で一番使いやすいと感じたのが『ミスゼロ子』でした。例えば、10錠シートと14錠シートが混在した場合に調剤ミスが起こりやすいのですが、『ミスゼロ子』では【〇〇錠20mg 60T<4シート+4T>】と表示されます(写真参照)。非常に分かりやすいですね」と山口氏。

下浦氏は「人間だけのチェックでは、何人かけてもミスは起きます。機械だけでやってもダメで、タイプの違うものを組み合わせるチェックが必要」とした上で、「『ミスゼロ子』は棚番登録・表示ができるので、薬の場所を探すというムダな作業も省けます。おかげで、ヒューマンエラーは激減し、薬の取り間違え、取り忘れは限りなくゼロに近付いています」と「ミスゼロ子」を高く評価している。